令和2年6月

中札内村議会定例会会議録

令和2年6月17日（水曜日）

◎出席議員（7名）

1番	欠員	2番	中西千尋君
3番	黒田和弘君	4番	大和田彰子君
5番	北嶋信昭君	6番	船田幸一君
7番	宮部修一君	8番	中井康雄君

◎欠席議員（0名）

◎地方自治法第121条の規定による説明のための出席者

中札内村長 森田匡彦君 教育長 高橋雅人君
代表監査委員 木村誠君

◎中札内村長の委任を受けて説明のため出席した者

副村長 山崎恵司君 総務課長 川尻年和君
住民課長 高島啓至君 福祉課長 高桑佐登美君
産業課長 尾野悟里君 施設課長 成沢雄治君
中札内山澤康宏君
消防署長

◎教育長の委任を受けて出席した者

教育次長 阿部雅行君 指導参事 西田茂生君

◎農業委員会会長の委任を受けて出席した者

事務局長 中道真也君

◎職務のため出席した議会事務局職員

議会事務局長 岩崎孝哉君 書記 木村優子君

◎議事日程

日程第1	請願第1号 (委員会報告)	2021年度地方財政の充実・強化を求める意見書の採択を求める請願
日程第2	請願第2号 (委員会報告)	2020年度北海道最低賃金改正等に関する意見書の採択を求める請願
日程第3	意見書案第2号	2021年度地方財政の充実・強化を求める意見書
日程第4	意見書案第3号	2020年度北海道最低賃金改正等に関する意見書
日程第5	議案第63号	令和2年度中札内村一般会計補正予算について
日程第6		一般質問

◎開会宣告

○議長（中井康雄君） ただいまの出席議員数は7人です。

定足数に達しておりますので、ただいまから令和2年6月中札内村議会定例会を再開いたします。

ただちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配布したとおりです。

◎日程第1 請願第1号 2021年度地方財政の充実・強化を求める意見書の採択を求める請願

◎日程第2 請願第2号 2020年度北海道最低賃金改正等に関する意見書の採択を求める請願

○議長（中井康雄君） この際、日程第1、請願第1号、2021年度地方財政の充実・強化を求める意見書の採択を求める請願、日程第2、請願第2号、2020年度北海道最低賃金改正等に関する意見書の採択を求める請願の2件を一括して議題とします。

この請願第1号と第2号は、総務厚生常任委員会に付託した事件です。

審査が終了し、委員長から報告書の提出がありました。

委員長の報告を求めます。

中西総務厚生常任委員会委員長。

（中西千尋総務厚生常任委員会委員長登壇）

○総務厚生常任委員会委員長（中西千尋君） それでは、ご報告をいたします。

総務厚生常任委員会審査報告書。

令和2年6月9日開会の定例会において、付託された事件の2件について審査を終了しましたので、会議規則第94条の規定により報告をいたします。

審査終了した付託事件は、請願第1号、2021年度地方財政の充実・強化を求める意見書の採択を求める請願及び請願第2号、2020年度北海道最低賃金改正等に関する意見書の採択を求める請願についてであり、審査は6月9日、全委員の出席を得て審議いたしました。

結果は、2件の請願の内容・趣旨は十分理解できるものであり、請願第1号及び第2号は採択と決定しました。

以上、報告いたします。

○議長（中井康雄君） 報告が終わりました。

これから2件の委員長報告に対しての一括して質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

請願第1号の委員長報告に対する討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

請願第1号、2021年度地方財政の充実・強化を求める意見書の採択を求める請願を採決します。

この請願に対する委員長の報告は、採択です。

委員長報告のとおり、採択と決定することに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 異議なしと認めます。

したがって、請願第1号は、委員長報告のとおり、採択することに決定いたしました。

請願第2号の委員長報告に対する討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

請願第2号、2020年度北海道最低賃金改正等に関する意見書の採択を求める請願を採決します。

この請願に対する委員長の報告は、採択です。

委員長報告のとおり、採択と決定することに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 異議なしと認めます。

したがって、請願第2号は、委員長報告のとおり、採択することに決定いたしました。

お諮りします。

中西議員から、意見書案第2号及び意見書案第3号が追加提案されました。

この際、これを日程に追加し、順序の変更をして、ただちに議題にしたいと思います。

このことに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 異議なしと認めます。

したがって、意見書案第2号及び意見書案第3号の2件を日程に追加し、順序の変更をして議題にすることに決定しました。

暫時休憩します。

休憩前に引き続き、会議を開きます。

◎日程第3 意見書案第2号 2021年度地方財政の充実・強化を求める意見書

◎日程第4 意見書案第3号 2020年度北海道最低賃金改正等に関する意見書

○議長（中井康雄君） この際、追加日程第3、意見書案第2号、2021年度地方財政の充実・強化を求める意見書、追加日程第4、意見書案第3号、2020年度北海道最低賃金改正等に関する意見書の2件を議題にします。

お諮りします。

この意見書案第2号及び意見書案第3号、この2件は、会議規則第39条第2項の規定により、提案理由の説明を省略したいと思います。

このことに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 異議なしと認めます。

したがって、意見書案第2号、意見書案第3号の2件については、提案理由の説明を省略することに決定しました。

これら2件を一括して質疑を行います。

質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

意見書案第2号に対する討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

意見書案第2号、2021年度地方財政の充実・強化を求める意見書を採決します。

この意見書案は、原案のとおり決定することに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 異議なしと認めます。

したがって、意見書案第2号は、原案のとおり可決されました。

意見書案第3号に対する討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

意見書案第3号、2020年度北海道最低賃金改正等に関する意見書を採決します。

この意見書案は、原案のとおり決定することに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（中井康雄君） 異議なしと認めます。

したがって、意見書案第3号は、原案のとおり可決されました。

◎日程第5 議案第63号 令和2年度中札内村一般会計補正予算について

○議長（中井康雄君） 追加日程第5、議案第63号、令和2年度中札内村一般会計補正予算についてを議題にします。

提出者から提案理由の説明を求めます。

森田村長。

（森田匡彦村長登壇）

○村長（森田匡彦君） ただいま、議題に供されました、一般会計補正予算の提案の趣旨についてご説明申し上げます。

既定の歳入・歳出予算の総額に、それぞれ46万6,000円を追加し、総額を63億1,905万7,000円に調整したものであります。

詳細につきましては、担当課長より説明申し上げますので、よろしくご審議、ご決定くださいますようお願い申し上げます、説明を終わります。

○議長（中井康雄君） 補足説明、川尻総務課長。

○**総務課長（川尻年和君）** それでは、一般会計補正予算の補足説明を申し上げます。
黒ナンバー13番をご用意いたします。

一般会計歳出から説明させていただきます。

一般会計補正予算書の7ページをお開きください。

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金に係る補正予算として取り進めるものでございますが、10款教育費、5項社会教育費、4目文化創造センター管理費、説明欄上段、電話料2万6,000円の追加及び公衆無線LAN設置委託44万円の追加は、文化創造センターにおいて、今後の利活用を見据えて、Wi-Fiを増設するとともに、その増設に伴うWi-Fi利用料でございます。

6ページをご覧ください。

今回の補正予算に対し、歳出に見合う額を国からの第2次地方創生臨時交付金を想定し、財政調整基金46万6,000円を繰り入れて調整するものでございます。

以上で一般会計補正予算の補足説明を終わらせていただきます。

○**議長（中井康雄君）** これで提案理由の説明を終わります。

議案第63号に対する質疑を行います。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○**議長（中井康雄君）** 質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

議案第63号に対する討論を行います。

討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○**議長（中井康雄君）** 討論なしと認めます。

これで討論を終わります。

議案第63号、令和2年度中札内村一般会計補正予算についてを採決します。

この議案は、原案のとおり決定することに異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○**議長（中井康雄君）** 異議なしと認めます。

したがって、議案第63号は原案のとおり可決されました。

◎日程第6 一般質問

○**議長（中井康雄君）** 追加日程第6、一般質問を行います。

質問、要旨、答弁はそれぞれ簡略明解に願います。

順次、質問を許します。

通告順により、最初に、4番大和田議員。

○**4番（大和田彰子君）** 私からは、学校における新型コロナウイルスの影響について、気になっているところなので質問をさせていただきます。

まず一つ目としては、学校の新しい生活様式についてお聞きします。

6月1日より学校が本格的に再開され、教職員は感染予防対策に大変な尽力を尽くしておられることと思います。

国からは再開のガイドラインとして、学校の新しい生活様式を踏まえた行動基準が出されており、感染リスクを可能な限り低減させながら教育活動を行なっているのが現状のことと思われま。

この新しい生活様式を実践するために児童生徒の指導のみならず、朝の検温、消毒に加え、休み時間や給食配膳時の衛生管理など取り組むことが多々あると考えられますが、実際はどのようになっているのかお聞きしたいのと、また、場合によっては、学校ボランティアやPTAなど地域の方々の力をお借りし、サポートや支援をしていくこともできるのではないかと考えますが、この辺について、どのように考えられるかお伺いします。

2番目としては、オンライン授業の体制整備についてお聞きします。

長引く休校がいつまで続くのか分からない、不要不急の外出が制限され、子どもたちはさまざまな不安やストレスを抱いていたと思われまます。

小学校では、プリントやドリルの宿題を郵送し、家庭学習をしていたと聞いておりますが、今回長引く休校で学校と生徒を結ぶ通信環境の必要性を感じました。

中札内においては、GIGAスクール整備を早急に進められておりますが、今後も次のコロナウイルス発生を想定し、再び長期休校になったときの対応策として、インターネットを用いたオンライン授業の体制整備が必要と考えます。

このGIGAスクール構想は、主に校内通信ネットワーク授業を想定していると思われまますが、オンライン授業としても活用していけるのかお伺いします。

3点目として、今後の授業についてお伺いします。

授業の時間数の遅れを埋めるため、各市町村では夏・冬休みの短縮、7時間授業などさまざまな工夫をこらしています。

特に、卒業を迎える学年の児童生徒は進路で不安な気持ちでいると思われ、「あの年の生徒気の毒だったよね」で終わらせないためにも、今後の授業をどのように工夫をされていくのかをお聞きします。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） 学校における新型コロナウイルスの影響についてですが、1点目の学校の新しい生活様式についてですが、基本的な感染症対策の取り組みとして、次のポイントを踏まえております。

感染源を断つこととして、児童生徒、教職員も発熱等の風邪の症状がある場合には、自宅で休養することを徹底しております。

登校時に、児童生徒等の検温結果及び健康状態を把握します。

健康状態の把握には、健康観察シートを活用し、家庭で体温や健康状態を確認できなかった児童生徒については、登校時に教職員が検温及び健康観察を行っております。

消毒については、文部科学省からの学校における消毒方法等についての通知により、児童生徒等がよく手を触れる箇所については、1日に1回以上、消毒液を浸したペーパータオルなどで拭いております。

消毒薬については、手の消毒はエタノールを使用し、物の表面の消毒にはエタノールが不足のため、社会福祉法人ポロシリ福祉会で製造した次亜塩素酸水を使用しております。

給食については、配食を行う児童生徒及び教職員の衛生面を徹底し、会食にあたっては、机を向かい合わせにしない、会話を控えるなどの対応をとっています。

休み時間については、教員の目が必ずしも届かないことがあることから、児童生徒に感染症対策の考え方を十分に理解させ、一定程度の距離をとるなど必要な指導を行っております。

学校ボランティアやPTAなどの支援についてですが、不足となったマスクに対して、多くの村民から提供いただき、大変ありがたく児童生徒らに使用させていただきました。

このような物的支援のほか、ご質問のような衛生管理の取り組みに対する支援について

は、学校再開後の現状の感染レベルでは、教職員の対応で十分な状況にありますが、感染レベルが上がると、消毒などに時間がとられてしまい、教材準備に十分な時間が取れなくなると想定されますので、今後の再流行に備え、学校ボランティアやPTAの支援も必要と思われまますので、地域協働型学校づくり協議会も含めて、話題提起してまいりたいと考えております。

2点目のオンライン授業の体制整備についてですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による臨時休校の長期化によって、これまで以上にGIGAスクール構想への関心が高まっております。

ご質問のとおり、GIGAスクール構想によりオンライン授業が可能となります。

昨年12月時点では一人1台端末と通信ネットワークの整備を令和5年度までに目指すとされていましたが、臨時休校が長期化する状況からスケジュールが前倒しとされ、本村も今定例会に端末の購入について、追加提案させていただきました。

児童生徒の家庭におけるICTを活用した学習環境等の調査を先月行ったところ、インターネットを介した学習活動が困難な割合は、小学校で36.1%、中学校では14.5%が視聴できない家庭環境であることが分かりました。

今後の再流行による臨時休校に備え、GIGAスクール構想による整備に加えて、通信環境がすでに整備されている公共施設の利用などを行い、全員がオンライン授業に参加できるような体制を進めてまいります。

3点目の今後の授業についてですが、学びの保障のための教育活動について、夏・冬などの長期休業期間の見直し、学校行事の重点化や各準備期間の短縮化等により、年度当初に予定していた学習内容の指導を終えるようにいたします。

具体的には、夏休みを小学校では5日から7日間、中学校で9日間を短縮し、学習の遅れを取り戻し、冬休みについては、中学校は4日間の短縮をしますが、小学校については、現状の休業期間を予定しております。

学校行事については、一学期から延期し、簡略化等をいたしますが、修学旅行は時期、期間、研修先などに再考を加えて、実施の方向で考えております。

各行事は、異学年との触れ合いの中で学ぶことが重要であり、成長の場と位置付けられ、児童生徒にとって楽しみのない味気のない学校生活にならないよう、多くの行事を実施できるように進めてまいります。

○議長（中井康雄君） 4番大和田議員。

○4番（大和田彰子君） それでは、再質問は一つずつお聞きいたします。

まず、1番目の学校の新しい生活様式についてですが、学校での感染対策の状況は、今、教育長がお話のとおり状況が分かりました。

コロナウイルスがどの程度学校に影響を与えているのか。

また、これからの学校教育の在り方がどのような方向に進んでいくのか気になっているところです。

ただ、今の答弁で、地域協働型学校づくり協議会、これはコミュニティスクールのことがありましたが、現在の状況では、協議会を開催することもなかなか難しい環境にあるとは思いますが、3月の教育執行方針の重点目標の一つに、地域全体で子どもを守り育てる体制づくりを村は推進するという目標が掲げられております。

先ほどの答弁で、学校支援の在り方については、必要に応じて話題提起をしていくというような内容に感じましたけれども、子どもを取り巻く環境は変化している今、中札内独自の地域に開かれた学び方がさらに必要になってくると考えます。

多くの大人との触れ合いなど、計画をさらに進める必要があると考えますが、話題提起の先にどのような体制づくりを目指しているのか。

考えがあればお聞かせ願いたいと思います。

また、子どもたちの生活面、それから精神面など心のケアについても気になる場所ですが、いじめや偏見などにつながらないように、どんな指導をしているのかお聞きいたします。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） 今、ご質問にありましたCSの件なのですが、ご存知のとおり、現在、会議等は招集できません。

こちらの方に提案させていただいてご協力を願うという形でも、学校の中に複数の者が入ってくるということを今ちょっと自粛の体制で見守っている状況であります。

ですから、学校の中に業者さんであったり保護者さんであったりということを集団で集めるということはちょっと難しいと。

ただ、状況を見ながら、感染状況の動きを見てお願いしたりという形で、先生方が授業体制、子どもとの取り組みに十分時間を取れるような形で確保していってまいりたいと思っております。

あと、心のケアの方なのですが、今回、コロナの対策の中に、健康とは何ぞやと。

コロナの感染症の仕組みはどうなっているのかということも一つの学習として取り上げるポイントとなっております。

感染防止と付き合いながら、仲間と学校生活を有意義に過ごすということが、教室内の授業の方でも展開されて説明をされています。

また、これに伴いまして、報道等でも出ているのが、差別ですとかいじめの問題等も併せて、指導の方が入っている状況でございます。

○議長（中井康雄君） 4番大和田議員。

○4番（大和田彰子君） ありがとうございます。

分かりました。

今後このような状況が長く続くと思われま。

地震などの災害と同じく、教育委員会としても、地域でどういったことができるのか、しっかりと、今後、CSを中心にシミュレーションする必要があると私自身考えます。

あと、子どもの精神面のケアですが、村外での噂では、中札内村で感染した子どもが、家族がいじめにより村外に引っ越したという噂が打ち消しているのにもかかわらず、未だに薄れることなくずっと言われ続けているのが現状です。

そのことが当事者にどのような影響を与えているのかは分かりませんが、そこは危惧するところです。

これらいじめや偏見などの差別につながらないように、先ほど教育長が言ったコロナを中心とした学習と言っていますけども、そこは本当にいいことだと思って聞いていました。

また、そういう道徳的教育も必要になるかと思いますので、プライバシーに配慮しながら、地域に安心して暮らすことのできる環境づくりに細心の注意を払っていただきたいと思いますが、その辺の考えはどうでしょうか。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） 今、議員の方からお話ありました感染が過去にあった子どもについて、家族について、いろいろな噂が出ているというのは私も間接的に承知しているところでございます。

非常に残念というか、そういうようなお話になっているのだなど。
私の方の耳に触れた部分に関しましては、そうではありませんよと。
元気に過ごされていますよという形でお話をしています。

これは全国的にも、今、SNS等でいろいろな誹謗中傷が問題とされている中、今後もこの感染の区別・差別以外にも、いろんな意味でもはびこってくる問題と考えておりますので、特に本村の中学校は、道徳の指定授業をこの2年間受けて、この管内でも先進的な道徳指導ということで力を付け、磨きをかけてきております。

それと中学校、小学校、この9年間を通した道徳指導ということで、村の教育ではやっております。

ですから、小学校の方も道徳教育の充実、そして、この偏見・差別のない学校生活、社会の構成ということで伝えていこうと、これからも尽力したいと思います。

○議長（中井康雄君） 4番大和田議員。

○4番（大和田彰子君） ぜひ、そのような取り組みを期待するところです。

よろしく願いいたします。

それでは、次に、オンライン授業の体制整備についてお聞きします。

インターネットでの学習環境がない家庭、特に小学生が36.1%ということで、予想以上に多いのだということが分かりました。

これパーセントで出ているのですけれども、具体的な児童生徒数は何人なのかお聞きします。

また、ない要因の詳細についてお聞きしたいのですけれども、ネット環境がないということで、その要因は、インターネットの環境がないのか、または機械的な要因、例えば、マイクとかカメラがないとか、そういう理由があつて、この36.1%なのかということをお聞きします。

さらにGIGAスクール環境整備が完了するのはいつ頃を目処とされているのかもお聞きします。

○議長（中井康雄君） 阿部教育次長。

○教育次長（阿部雅行君） 詳細について、私の方から説明いたします。

まず、小学校の方ですけれども、何人そのような環境ないのかということなのですけれども、233人中83人程度になります。

その理由といたしましては、実際まだ小学校ですので、1年生から6年生と結構幅広いですので、低学年の方についてはそのもの、子どもが扱う端末がないよと、親がいないから使えないよ。そういう理由がございます。

あと、端末がない、一人1台ない。

まだ子どもが操作できるものがないというのが主なものになってきます。

そして次に、2点目のGIGAスクール構想についての整備ですけれども、今回、3月に補正したものにつきましては、8月末あたりに端末が入ってきます。

併せて、そのときに環境整備もいたしましたので、環境整備も終える予定となっております。

そして今回、6月定例のときに追加で提案したものにつきましては、今のところ混みあってきている状況なので、3月までには、年度末までには入るという形になっています。

ただ、それではあまりにも遅いので、もう少し早く入るような努力をいただいている状況です。

あと、まだそれですべてではありませんので、そのほかにつきましては、今現在、学校に

ある端末を活用するように考えております。

○議長（中井康雄君） 4番大和田議員。

○4番（大和田彰子君） 分かりました。

結構の人数がないということが分かったのですが、臨時休校になった場合、こういう公共施設でオンラインを通してやる、全員が同じ授業に参加できる体制を進めるってことなのではけれども、人数が多いということで、文化創造センターですよね、公共施設というのは。

そこに全員がWi-Fi機能が整った部屋に入ることができるのか。

異年齢の子どもたちもいろいろいると思いますけれども、そういう密にならないような環境は整っているのでしょうか。

○議長（中井康雄君） 阿部教育次長。

○教育次長（阿部雅行君） 今回追加させていただいた補正で、文化センターの環境を整備いたします。

可能性として、文化センターもその学びの場になる。

そのほかに、学校も学びの場になるかなと思っています。

そして、1日の授業ですけれども、通常であれば6時間あるのですが、ずっとそういうリモートの授業というのは考えておりません。1日に何時間程度になると思います。

そう考えますと、学年ごと時間帯をずらす、そういうことも一つ可能かなと思いますので。

すべての学年が同じような時間帯に集まるということは、それはないと考えていただいて結構です。

○議長（中井康雄君） 質疑の途中でございますけれども、休憩をしたいと思います。

11時まで休憩いたします。

暫時休憩をします。

休憩 午前10時45分

再開 午前10時59分

○議長（中井康雄君） それでは、皆さんお揃いになりましたので、休憩前に引き続き会議を開きたいと思っております。

4番大和田議員。

○4番（大和田彰子君） 3番目の質問に入らせていただきます。

今後の授業についての質問をお聞きします。

先ほどの答弁で大体のことが分かったのですが、進学を控えている中学3年生に対する指導では、学校生活の充実については答弁されていましたが、進学に支障を及ぼさないような手厚い対策が必要と考えております。

具体策はなくても、今後、どのように取り組もうとしているのか、もう少しお聞かせ願います。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） 今のご質問に対して、コメントをさせていただきます。

実は、本日、中学校の方から、冬休みの期間も短縮をさせてほしいという形で、行事が延期、まずされております。

延期された行事の内容の工夫を、今精査しています。

例えば、修学旅行であれば、時期・場所それと期間の長さ等も最終調整をしている段階です。

中3生が高校進学ということも含めまして、しっかりと学習を戻すということで、冬休みの方も手を付けて短縮をさせていただきたいという要望が、本日今朝飛び込んできている状況でございます。

また、文科省の方から、全国の都道府県の方に、高校入試の在り方について、この指導通知が入ってきております。

この通知の内容が、5月13日付けで通知が入ってしまして、これは市町村教育委員会ではなくて、都道府県の方に行っているのですが、いわゆる高校入試の出題範囲、内容、方法について、再考、一考を加えてほしいと。

簡単に言えば、工夫を講じてほしいというのが入っております。

この趣旨は、スポーツや文化の関係の行事大会等の実績を高校入試でも考慮し勘案するのですけれども、大会等が中止になっている。

また、資格検定等も受験を控えているという中での中3生の学業の状況になりますので、決して不利益にならないようにという形で、都道府県の方に高校入試の在り方について通知が入っております。

この内容を北海道の方が受けて調整中であると聞いております。

○議長（中井康雄君） 4番大和田議員。

○4番（大和田彰子君） 分かりました。

今後、ぜひ、今言ったような手厚い授業をよろしく願いいたします。

次にですけれども、外国語の授業が始まっていると思いますけれども、それに伴い、中札内ではスタッフも充実し、取り組まれておりますけれども、マスクは発音など口元がわからなくどうしているのかなというところを疑問に感じます。

フェイスシールドを活用すれば表情が分かりやすくなるのではないかという利点があると私自身思っているのですけれども、その辺の検討はどうかと思います。

ということと、あと、プール学習ですね、そこは1学期中に行う予定なのか。

行くとすれば、どのような対策を検討されているのかお伺いします。

最後ですけれども、暑い日が先週ずっと続いていましたけれども、熱中症対策を考えたときに、マスクを着用しての授業はこれから大変になるかと思われまます。

国の指針では、距離さえ保っていればマスクも付けなくてもいいというように掲げられておりますけれども、何か夏の暑さ対策について考えがあればお聞かせ願います。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） 私の方から、外国語の方のお話をさせてください。

議員ご指摘のとおり、本年度から小学校には2名のALTを配置しております。

先に配置されております方からの指導といいますか、今までの経緯をくみ取る形で新しいスタッフの方が入ってきていると。

今、外国語のお話なのですが、小学校5年生、6年生は、正式に教科書を使った教科となりました。

教科になりますと、二つのことが生じまして、一つはテストをしなければならない。

テストがあると、その成績を付けなければならない。

3、4年生は、外国語活動ですから、ある程度言葉ですとか英語に親しんでいくということが観点になりますが、5、6年生は正規の教科という形になります。

この休校期間の間、各小学校のいわゆる日本人の先生方とALTの2名の先生方で、事

前に打ち合わせをしております。

私の方も、先日、授業を見たのですが、ご指摘のとおり、語学は口元がわかる方が伝わりやすいということがあるのですが、全員ではないのですが、一部フェイスシールドを使って授業をやらうとしたり、やっているというのも聞いています。

ただ、これは全部が全部ということではちょっとありませんけれども、今後、拡大していく可能性があります。

口元のほかに、やはり音声重視の、今の日本の外国語は中心となっていますので、耳で聞いて、そして自分が発話をするという形です。

一般論ですけども、英語関係の授業をやる時の教員は、ある程度口を大きさに開けて言葉を伝えるというのが一般的なお話です。

大きさに開けることによって、日本語とは違う音を伝えていくというところがイメージとして伝わっていくのかなと。

ただ、今後、コロナ禍においてもコロナ禍ではなくても、外国語の指導、力入れていきたいと思っていますので、口元、音声学と言うのですが、音のつくり方、これも推進してまいりたいと考えております。

○議長（中井康雄君） 阿部教育次長。

○教育次長（阿部雅行君） プール授業についてですけども、これにつきましても、スポーツ庁、文科省の方から通知が来ております。

プール授業、水泳授業をやらない学校、自治体あるのですが、中札内村としては、プール授業を行ってまいります。

中学校については、今検討中なのですが、小学校については行ってまいります。

ただ、この通知の中にあるとおり、密の場面を避けるという形を徹底していきたいと思っております。

具体的に言いますと、更衣室が一番可能性があるのですが、その使用人数をある程度少ない人数で、順番に利用する。

10人程度ずつ順番に利用して使うという形で行ってまいりたいと思っております。

当然、プール授業、水泳授業をやるということにあたっては、保護者等の理解も十分得た中で進めていきたいと考えております。

もう1点ですけども、熱中症対策についてですけども、これから暑い時期を迎えます。

今回、6月定例で、補正で保健室のエアコンを設置して認めていただいたのですが、そのほかに、昨年までは授業中の個人の水筒ですか、中学校においてはちょっと認めていなかったのですが、今年度については、そういう形を、水分補給を授業中でも取れるような工夫をしております。

併せて、先ほどお話あったとおり、このマスクなのですが、ある程度距離を取った中の授業をしていますので、本当に暑いときにつきましては、距離取っていただければ外すのも可能かなと考えております。

○議長（中井康雄君） 4番大和田議員。

○4番（大和田彰子君） ありがとうございます。

随分理解できました。

これからもいろいろと工夫しながら、どうぞ頑張ってやっていただきたいと思っております。

ありがとうございます。

これで質問を終わります。

○議長（中井康雄君） それでは、次に、2番中西議員。

○2番(中西千尋君) それでは、引き続いて、私も教育関係についてお伺いをいたしたいと思えます。

新型コロナウイルス感染症対策に伴う中札内村の児童・生徒の学習授業時間、日数の確保対応について。

一つ、村内小中学校においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、長期に渡る臨時休業をすることとなり、臨時休校・自宅待機学習となったが、学習時間減による、児童・生徒の学力や健康維持への影響はなかったのか。

2番目に、卒業式・入学式の縮小により、また、各種予定していました学校行事計画の中止・延期により、教育現場にどのような影響が出ているのか。

そして最後に、夏休みの短縮だけで授業日数が確保できるのか。

まずこの3点について、お伺いをいたしたいと思えます。

○議長(中井康雄君) 高橋教育長。

○教育長(高橋雅人君) 新型コロナウイルス感染症対策に伴う児童生徒の学習授業時間、日数確保対応についてですが、1点目の児童生徒の学力や健康維持への影響についてですが、本村においては、2月27日から臨時休業が始まり、4月の入学式から約1週間程度の教育活動を行いました。4月20日から再度の臨時休業となり、5月18日からは、児童生徒の生活リズムを再構築するための分散登校が始まり、通常の学校再開は6月1日となりました。

この長期間、各学校では家庭訪問や電話での健康観察、学習支援などによる児童生徒への支援を行ってまいりました。

臨時休業期間中の学力に係る家庭学習についてですが、休業が長期となることから、教科書に基づく家庭学習を課すことが文部科学省から求められ、各学校においても指導計画を踏まえながら、家庭学習を課すとともに、家庭訪問などで学習状況の把握を適切に行ってまいりました。

その後、児童生徒が学校に登校することができるようになった時点で、臨時休業期間における学習内容の定着確認を行い、学校において、学習の遅れを補う措置を講じてまいります。

学習の遅れを取り戻すのは急務であり、長期休業期間の短縮などで授業時数を確保してまいります。

健康維持については、臨時休業により児童生徒らは体を動かす機会が減っていますので、屋外での適度な運動について推奨する子ども安心メールを臨時休業等のお知らせに加えて、複数回送信を行い、生活リズムについても規則正しく過ごすように、学校を通じて各家庭に通知しております。

また、一部学校では、独自の取り組みとして、休校中の児童生徒の体力向上や健康的な生活を目指した応援企画が進められました。

学校再開後では、運動不足になっている児童生徒もいると考えられることから、体育授業・部活動・少年団活動については、十分な準備運動や練習期間を得るようにしております。

2点目の学校行事の延期・縮小・中止による教育現場への影響についてですが、すべてに共通することですが、多くの人が集まり密にならないことを原則としております。

学校教育は、協働的な学び合いの中で行われる特質を持つことから、すべて中止とならないよう精選し、実施方法の工夫や準備時間の短縮など、参加人数を考慮したうえで地域の実態に応じた実施を考えて、新型コロナウイルス感染症による学校休業が教育現場に与える影響を最小限に抑えることができるよう。また、これまでと変わらないような学校生活を目指して取り組んでまいりたいと考えております。

3点目の夏休みの短縮だけで授業日数は確保できるかについてですが、今回の臨時休業により、5日から9日間、夏休みを短縮し、中学校については、冬休みを4日間短縮して、授業日数を確保いたします。

短縮と併せて、時間割編成の工夫などを行い、学校における指導を充実してまいります。

現在の状況から、各学校とも夏休みの短縮等により、授業時数を確保し、再度休業になった場合にも柔軟な対応の備えを行っております。

○議長（中井康雄君） 2番中西議員。

○2番（中西千尋君） 分かりました。

今回、一般質問が3人の議員すべてが教育問題、コロナに関する教育問題になっておりますので、先に大和田議員の一般質問で相当数答弁をいただいておりますので、なるべく重複しないように進めたいとも思いますので、よろしくをお願いします。

まず、文面をいただいたときに、臨時休業という文言で書かれておりますけども、よく臨時休校という言葉も使いますけども、この文言の使い分けは何かありますか。

まずそれ1点お聞きしたく。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） すみません、答弁の内容で、休校と休業が混ざってしまって大変恐縮です。

一般的な定義をお伝えしますが、民間の商店等が営業をしないというのを休業と言うのですが、学校教育の世界では、授業をやらないことを休業と言います。

授業をやらないことを休業。

で、休校は、先生方も勤務しないということを意味しております。

ですから、休業期間中は、先生方は通常どおり勤務ですと。

休校になった場合は、先生方の一部も出てこれないというような扱いになっております。

○議長（中井康雄君） 2番中西議員。

○2番（中西千尋君） 分かりました。

今、説明をいただきましたので、その使い分けが分かったことであります。

それでは、1番目の問題で、3学期の末、2月27日より春休みを含めて新学期始まりましてからも、6月1日の通常の学校再開まで臨時休業をなされておられたわけでありまして、各学校における学習時間の減少に伴い、これは実際の授業日数とか授業時間、どのぐらいだったかというのはご報告いただけますか。

それと併せて、それに伴って、3学期の学習内容がすべて修了できていたのかどうか。

特に中学3年生、小学6年生の卒業生がおられましたけども、それらがすべて、昨年度の授業日数がすべて修了しておったのかをまずお聞きしたいと思います。

○議長（中井康雄君） 西田教育指導参事。

○指導参事（西田茂生君） 今の件ですが、まず、4月末までで17日間授業ができませんでした。

ですので、今、局の方からも調査が来ておりますけれども、私が今把握している段階では、平均して40時間ほど、今不足していますので、この後、6月1日以降、授業の中で回復をしてみたいなと思っております。

未履修についてですけれども、5月末までで、小学校の未履修部分はゼロであります。

中学校につきましては、中学2年生と、それから3年生、それで6時間から9時間、中学校1年生で11時間ほど、まだ残っておりますが、この後の授業の中で回復をしてみたいと思っております。

○議長（中井康雄君） 阿部教育次長。

○教育次長（阿部雅行君） 年度末まで、3月末までなのですが、中学校3年生についてはすべて終えた状況で、小学校6年生については、先ほど、西田参事が話したとおり、未履修部分が残っていますので、それを中学1年生になってから履修するような形を取ってございます。

○議長（中井康雄君） 2番中西議員。

○2番（中西千尋君） 分かりました。

中学校も小学校もほとんど昨年度分については修了しておるということでありましてけれども、この対応は、各学校によってそれぞれ、中学校は1校ですけれども、小学校は2校ありますけれども、小学校については2校ともという押さえでよろしいでしょうか。

上札内小学校、中札内小学校2校ありますが、学校教育の部分では、各学校にそういう、結構授業日数等、休みとも任せてある分があるかとは思いますが、それらは各学校の裁量で、小学校では、上小では全部済んでいるけれども、中小では、今言ったように、何教科残ったという部分の押さえは、そのような形でよろしいでしょうか。

○議長（中井康雄君） 阿部教育次長。

○教育次長（阿部雅行君） 小学校、ご存知のとおり2校ございまして、昨年度につきましては、インフルエンザ関係がありまして、片方の学校の休業期間が長くなった現実があります。

上小も中小も同じかと言いますと、実際がその部分は多少違っております。

ただ、中学になると、同じ1校になりますので、そこについて学力の遅れのないような形で、遅れた方に合わせたような形で、学び残したものを中学に入って学んできております。

○議長（中井康雄君） 2番中西議員。

○2番（中西千尋君） 分かりました。

今説明がありましたように、2校については、インフルエンザの関係ということで授業日数がちょっと変わったということで押さえさせていただきましたので、ありがとうございます。

それでは、もう1点、各学校によって、先ほどから言われている臨時休業、休校中の家庭学習の内容と学校、学年、学級それぞれ違いがあるのかお聞かせをいただきたいと思いますが、例えば、宿題が出ていると思うのですが、その宿題の内容が全国統一とか管内統一とか。

それとも、各学校によって違うのか。

学級が2学級あるところは、学級ごと。

先生方によってその対応が違うのか。

その点をお聞かせいただければ。

それから、そのプリントの内容、先生が独自につくってプリントを渡すのか、何か市販のものか何かでのプリントなのか。

そういうものをお聞かせいただければと思いますが。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） 今、家庭学習の課題、いわゆるプリントの件、ご質問いただきました。

基本的には、各学年担任の先生が製作をいたします。

ただ、今議員ご指摘のとおり、学校間の差ですとか、担当の先生での差、簡単に言いますと、A先生がつくるとプリントの枚数が多いとか、B先生がつくるとプリントの内容が細

かいとか、そういうばらつきがないような形で作成をするように指導しております。

また、この休業期間中、5月中に本村の教育研究所という名称なのですが、各先生方が集まって構成されるものなのですけれども、その中で、今言った偏りのない教科書ベースで、教育課程に則った課題プリントをつくっていかうという意見が出まして、今、筑波大学の方で構成しています各学年新学習指導要領に対応したいいわゆる学習プリントというのが見つかりまして、その導入を進めたところでございます。

先生方からも、教科によっては非常にやっぱり使いやすい、欲しかった資料が入っているというような声も聞いているところで、随時、それを使いながら、何月何日にどのページを配布し、それを回収し、評価を付けていくという形で、休業していた段階の家庭学習のいわゆる学習の内容と評価も参考にできるようにという取り組みが、今現在進行中でございます。

○議長（中井康雄君） 2番中西議員。

○2番（中西千尋君） それでは、授業が再開になりました。

その中で、今言ったように、休業中の授業を取り戻さなければというような、そういう現場での対応も大変かと思えますけれども、その授業再開に伴って、児童生徒へのメンタルケア、授業優先になってしまう分でのメンタルケア、子どもたちへの弊害が出てこないかどうか。

それには相当気を付けて取り組んでおられると思いますけれども、例えば、授業再開に伴って、休業中にできなかった部分、そういうものも含めて、子どもたちの何か授業再開に伴っての弊害が出てきていないかどうか。

それがまず1点お聞きしたいと思います。

それは今後、これからかとも思いますけど、何かそういう対応がありましたら、お聞かせいただければと思います。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） 今、ご指摘のとおり、授業が遅れているものですから、学び残しの部分を優先的にやると。

ただ、古い言葉を使わせていただきたいのですが、昔、詰込みという言葉がありましたよね。

とにかく生徒の状況を見ずに、どんどん知識を与えていくという時代でこういう呼び方がありましたが、この詰込みの形にならないように、バランスを持ってやっていただきたいと。

先生方も、時間数が差し迫っていない中でも、そのバランスは重視したいと。

私の方で入手している情報では、例えば、社会科の授業で、教室の中でやるのではなくて、校外は感染の方が防止につながりますから、校外にちょっと足を運んで、それで村の中で史跡などを巡りながらというものを短時間でやるというようなことも導入しながら、アレンジをしてバランスを取り入れているという報告を受けております。

○議長（中井康雄君） 2番中西議員。

○2番（中西千尋君） 昔よく言われた詰込み方式ということも聞いたことがございますけれども、それでは、再度、今の段階では、授業再開になってから、不登校とかという生徒児童は、これに関してはおられないでしょうか。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） 直接的にコロナで休業していたことが原因でという形で報告を受けていないのですが、1名程度、少し休みが多くなっている者がいるというのは受けてい

ますが、担任等々、養護教諭、カウンセラー等の支援を受けながら、アプローチをしているような状況でございます。

○議長（中井康雄君） 2番中西議員。

○2番（中西千尋君） ありがとうございます。

これも、今後、授業再開で授業優先というような形が続くと、今言ったように、ついていけなくなったりというようなことも含めて、不登校、落ちこぼれが出ないような、そんな体制は取られているということで、その件についても進めていただければと思います。

一つ、先の状況報告の中で、今年度は、全国の学力学習調査及び運動習慣調査をなされないという報告がありましたが、これは本村だけなのでしょうか。

全国的になのか、1点伺いしますが。

○議長（中井康雄君） 西田教育指導参事。

○指導参事（西田茂生君） 今年度につきましては、全国的に、全国学力学習状況調査と、そして、全国体力テストにつきましては中止ということで、文部科学省の方から通知が来ております。

○議長（中井康雄君） 2番中西議員。

○2番（中西千尋君） それでは、2番目の問題でございますけれども、卒業式・入学式の縮小、また、各種予定をされておられた各学期中の学校行事の中止、延期、これについて伺いしたいと思います。

先のご答弁の中にも説明を受けておりましたけれども、例えば、運動会、それから体育祭、小学校・中学校での。

これが2学期、9月に延期をするというような予定も聞いておりました。

修学旅行も、説明では2学期にということで説明をされておられましたけれども、運動会・体育祭、この2学期に延期をされての規模の縮小等はお考えでしょうか。

それから、修学旅行を9月ごろにということでありますけれども、この時期に相当数、どの町村もそうでしょうけれども、1学期の修学旅行が2学期に変更になったりということで、先ほども説明をされておられましたけれども、行先の問題だとか日程の問題、また、こういう時期になって、急にいろんな動きが出てくると、各旅行業者の問題もあると思いますけれども、この運動会・体育祭、それから修学旅行、この3件、規模の縮小はあるのか、まずお聞きしたいと思います。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） 今、ご質問にありました運動行事、運動会・体育祭、これ2学期以降にということで計画を目論んでいるのですが、教育委員会としましては、各競技、種目の精選と工夫をしてほしいと。

決して密にならないような形でできるものを、工夫で編み出してほしいという形で伝えております。

ですから、今までとはちょっと違うような種目だったり、数が少し少な目になったり等々も考えられます。

また、小学校あたりの運動行事ですと、保護者の方々が応援にまいりますね。

この保護者の方々が密にならないような形で配置されるようなことも視野に入れて、検討をいただいております。

また、中学校の修学旅行なのですが、実は中学校は4月に毎年行っています。

これは延期となりました。

また、それが8月の下旬の方に持っていったのですが、それをさらに延期としまして、1

0月の下旬の方に、今、動かそうとしています。

学校の方の判断で、子どもたちの体力、また、この中学校の修学旅行は中3生で受験期の生徒さんになりますので、体力的なものもきちんと対応したいということで、例年よりも1泊短縮で行いたいという要望が今挙がっております。

場所の方は、例年、札幌・函館方面なのですが、札幌の方はやっぱり避けてほしいという形をお願い申し上げまして、現在、函館を中心に。

札幌になりますと、自主研修も札幌となりますので、この自主研修も函館の市内で自主研修という形で、今動いております。

○議長（中井康雄君） 2番中西議員。

○2番（中西千尋君） 本当のこのコロナ感染の影響で、すべての行事がこうやって縮小されてきます。

そしてまた、学校現場もそういう形で、先生方も対応が大変かと思えます。

それでも楽しみにしておる児童生徒、それから、運動会・体育祭については、運動会については、小学校就学家庭の父兄たちが、学校行事の中でも特に参加をして観戦をしてという、そういうこともございますので、その家庭との連絡も密にしながら、そして、この年度、コロナの関係でそういうものがすべて縮小されていく中で、何か楽しい授業、楽しい行事になっていければなというふうにも思います。

それから、1学期に予定したものがすべて2学期へという意向がございますけれども、その2学期に各行事が集中することで、授業日数は確保できるのか。

まず、そこは、先ほどの休みを返上してということで確保はなっておるかと思えますけれども、何か2学期に行事が集中することによっての弊害は、今のところは、これからのことですが、何かお考えがありましたらお聞かせを。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） 行事の延期につきましては、いわゆる体育行事、運動会と、文化的行事というのがありますね。

小学校で言えば学習発表会、中学校で言えば文化祭、これと中学校も小学校も秋以降に修学旅行が入ってきまして、議員ご指摘のとおり、運動会等と学習発表会等が混みあうのではないのかというご指摘なのですが、それも考慮の上、時間数の確保を計算しております。

ただ、その際に、運動会もそうですし、文化的な文化祭行事もそうなのですが、今まで結構な準備時間を授業中に割いて練習や準備をしてきたわけです。

その辺のところ、圧縮をして簡略化して、なおかつ安全性を確保し、密にならない種目ということで依頼をかけている状況でございます。

日数的には、それを含みで計算しております。

○議長（中井康雄君） 2番中西議員。

○2番（中西千尋君） そういう関係で、非常に現場がいろんな形で、先生方の対応が大変になってくるかと思えますけれども、生徒の健康面も大事ですけれども、教育現場での先生方の健康面、それから精神面、いろんな形で大変だと思えますけれども、今後とも、教員、それから、職員の皆さんの健康管理、特別に何か委員会の方で、今までどおりの勤務時間帯ではありますけれども、先生方の教員職員のメンタルケアというのは何かお考えがありますか。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） 教職員につきましては、先ほどご説明したのですが、休業中、教

師は公務があると。

ただ、長期休業期間中、文科省の方も道教委の方も、在宅勤務を推奨するという形で動いておりました。

これは強制できないのですが、この状況で在宅勤務の奨励の中、希望者を取って、それで在宅勤務をさせておりました。

バランス的には、小学校よりも中学校の方が在宅の実施は人数的には多かったかなと思います。

小学校の方は、特に問題があったわけではなくて、学校で勤務をしながら対応をしていきたいという意見もあったと伺っております。

教員の方のストレスと言いますか、心のケアなのですが、今、手元に新聞社の方で調査した教員が抱く課題というようなシートがあるのですが、これは、ひと月ほど前の調査になりますので、学校再開される前のお話でございます。

先生方が心配しているのは何かというのですけども、断トツで二つの項目が出ています。

一つ目が、子どもたちについて、この休業期間中、日常的な学習習慣から離れてしまっているのではないか。これが心配だと。

二つ目が、時代を反映しておりますが、インターネットなどで動画やゲームなど、これをする事で依存度が高まっているのではないかと。

先生方は自分の心のケアよりもやっぱり子どもたちのことを通して悩みを持ったり、課題を持っているというような形になっております。

教育委員会としましては、この長期の休業期間中、いわゆる朝令暮改という言葉ございますね。

朝出た命令や政令が頻繁に変更されて一定しないと。

これは感染症の拡大に対していろいろな策を、判断を加えていくものですから、文部科学省、厚労省、文化庁、スポーツ庁、そして北海道、そして北海道教育委員会、で十勝の教育局の方で、それぞれが判断して、地元教育にふさわしいもの、できること、今やれることということで、内容が少しずつ日々変わってきた状況で、先生方の学校の方に情報が下りるときに、先週までのお話と今週までのお話に変更になったりということで、それについていく、柔軟に対応していくということに関しましては、ご心配やストレスをかけていたのかなは思いますが、各校長先生方のリーダーシップで、これを乗り越えて吸収していくものを、子どもたちのためであるという心で一丸となって、揃えていただいて、協力をいただいている現状でございます。

○議長（中井康雄君） 2番中西議員。

○2番（中西千尋君） ありがとうございます。

新しい言葉と言いますか、朝令暮改、朝の命令がもう午後になったら変わっているという、そういう意味で、それほど現場が大変だということもございましょう。

ぜひ、先生方のケアも十分にお考えをいただければと思います。

それから、最後になりますけども、臨時休業中、期間中の授業の確保で、夏休み短縮はお聞きしました。

5日から9日間の、それから、小学校・中学校も含めてです。

この問題は、ほかの議員もあとでご質問になられるかと思っておりますけども、一つ、土曜日の登校、土曜日での授業というお考えは何か、どこからか出ておるのか、お考えがあるのかお聞きしたいと思います。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） いわゆる学び残しの結果時数を補うための手法として、土曜日の授業、これもあるのですけれども、教育委員会としましては、平日の工夫はいいですが、土曜日はなるべく土曜日授業を行いたくないと。

今現状の状況では考えております。

理由は、児童生徒の体力的な問題、月曜日から金曜日まで登校、授業を受けて、土曜日も追加になる。

先生方の勤務の様態、これは公務員教員ですから、土曜日勤務すると、振替をつくってあげなければならない。

あとは、個々の子どもたちのことを想定しますと、習い事等々、少年団等々の活動の予定が入っていますので、今現状のコロナの状況でありますと、土曜日はさわりたくない。

今後の状況によりますけれども、土曜日というのは、多くて発生させても月に1回程度で、あとは夏冬の長期期間、または授業時間割の編成の工夫という考えの中に、中学校は50分の授業で小学校は45分なのですが、それぞれ5分ずつ短縮しまして、7時間目をつくと。

そうすると、それぞれの授業はちょっとだけ短くなるのですが、一時間多く授業を受けられるというような工夫の形もあるのですが、これも夏場の気温ですとか、生徒の集中力の問題等勘案しながら考えていかなければならないなと思っております。

今のところの感染状況ですと、それはまだ実施に踏み込むという考えは持っておりません。

○議長（中井康雄君） 2番中西議員。

○2番（中西千尋君） 本当に、このコロナウイルス対策について、ほかの現場も大変でしょうけれども、学校教育、子どもたちを抱えている現場、先生方のご努力は大変かとも思います。

それらも含めまして、今後とも教育委員会サイド、児童生徒の問題、そして教職員の問題、それぞれお考えがあるかと思えます。

以上、お聞きをしましたので、私の質問、これで終了いたします。

○議長（中井康雄君） それでは次に、7番宮部議員。

○7番（宮部修一君） それでは、最後の質問をさせていただきます。

今回、3名の方がほとんど学校教育の関係での質問ということで、ちょっとしつこい質問になってしまいますけれども、よろしく願いをいたします。

それでは、小中学校の臨時休校に伴う、学習状況の遅れを取り戻す対応について。

新学期が開始してからまもなく、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、臨時休校の措置がとられたわけですが、5月18日より分散登校を実施し、ようやく6月1日より学校が再開されました。

休校中も教職者の献身的なご努力で、ドリルの配布や心のケアを中心に連絡をとられたことと存じますが、児童・生徒・保護者の方々も学校の再開を心待ちにされていたことと思えます。

今までに経験したことがないような事態が発生し、教育現場も今後の学習状況の遅れをどのように取り戻すか、頭を悩ませておられると推測いたしますが、今後の対応について伺います。

1点目、夏季休業も授業時数確保のため短縮するようですが、冬季休業の短縮までは必要ないのか。

2点目、5月末まで当初終える予定の授業時数は何時間ほどだったのか。

また、5月末までに終えた授業時数は何時間か。

小学6年生と中学3年生についてお伺いいたします。

3点目、1学期に予定していた修学旅行・運動会・体育祭については、2学期以後に延期するようですが、保護者の理解は得られるのだろうか。

以上、伺います。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） 小中学校の臨時休校に伴う学習状況の遅れを取り戻す対応についてですが、1点目の冬季休業の短縮についてですが、現状では、夏季休業の短縮と時間割編成の工夫、併せて学校行事の精選などを行い、学びの保障に対応していく考えで、今後の感染拡大による急遽の臨時休業等が発生しないことが前提となりますが、小学校の冬期休業は短縮しない予定でおりますが、中学校は4日間短縮と考えております。

2点目の小学6年生・中学3年生の授業時数についてですが、5月末までに終える予定だったのは、小学校6年生で179時間から191時間、中学校3年生で182時間の授業を予定しておりました。

授業を終えたのは、小学校6年生で77時間から81時間、中学校3年生では81時間となっております。

このように現状では欠課が生じておりますが、年度当初にインフルエンザや災害など不測の事態に備えて余時数を設定しております。

今後の夏季休業の短縮、学校行事の工夫などで、全学年を通じて授業時数を確保してまいります。

3点目の学校行事の開催時期延期についての保護者の理解についてですが、新型コロナウイルス感染症の対応については、2月末以降、国、北海道教育委員会など関係機関からの通知などにより、保護者の理解や協力をいただいた中で対応してまいりました。

学校行事についても、教育委員会から各学校に学校行事の意義や必要性などの再確認を行い、感染防止対策に努めながら実施することを通知し、保護者も学校便りや通信によって延期などの周知を受けている状況でございます。

全国では修学旅行・運動会などの学校行事を中止とする報道も出てきておりますが、本村では開催時期の延期にとどめております。

学校行事は人間的に成長する場でもあるので、保護者の皆さんも同様にご理解いただくと考えております。

○議長（中井康雄君） 7番宮部議員。

○7番（宮部修一君） 先にお二人でかなり聞かれたので、私から聞くことが減ってしまったのですが、何点かお聞きしたいと思います。

それと、私、休校という言葉を使っていたのですが、先ほど、教育長のお話の中で、先生方が出てこない場合は休校だけでも、多分出て来られていたので休校という言葉がちょっと適当ではなかったのかなというふうに、今思っています。

申しわけございません。

まず1点目ですけれども、冬期休業の短縮は、感染拡大が発生しなければ短縮の予定はないと。

中学校については、今朝、4日間ほど冬期休業も短縮したいという報告があったということでございますけれども、その中で、学校行事の精選などを行い、学びの保障に対応していくと答弁の中であるのですけれども、先ほど、中西議員の質問の中でも、学習発表会ですとか文化祭ですか、そういったものについては、準備期間等を短くして、なるべくそ

ういうことで授業数を減らさないような工夫をするというような答弁があったのですけれども、そのような中におきましても、今回、かなり授業が遅れているということで、幾つかの行事を取りやめるようなものというのはあるのでしょうか。

その点まず1点お聞きします。

○議長（中井康雄君） 阿部教育次長。

○教育次長（阿部雅行君） 行事の取りやめですけども、大きい行事の取りやめというの
は考えておりません。

ただし、行事を、例えば、中学校であれば、体育祭と文化祭、これを精選して、合わすよ
うな形も一つの案ですし、あと、上札内小学校のイベント、石見神楽の演舞等もほかの行
事と合わすような形で確保している。

それに併せて、準備時間も短くして、授業時数を確保する。

そのような工夫をしてまいりたいと考えております。

○議長（中井康雄君） 7番宮部議員。

○7番（宮部修一君） 分かりました。

幾つかの行事を合わすような方法で進めていきたいということでございますので、理解
をいたしました。

それでは、2点目ですけども、文科省やら道教委の方からの通知で、多分、6年生と中
学3年生、卒業生においては、年度内に学習指導要領の内容を身に着けられるようにとい
うような通知が出されているのかなというふうに思うのですけれども、中札内では、全学
年が夏休みだけの、最初の答弁、ちょっと夏休みだけの短縮だったのですけれども、中学
校は冬期も4日間休むと、短縮するというのでございますけれども、それだけで授業時
数を取り戻せることができるのかなというふうに、私は思います。

私の2点目の質問で、6年生、中学3年生が5月末までで終わられていない授業時間と
いうのは100時間ほどになるのかなというふうに、自分の計算ではそのように思います。

単純に1日6時間授業をやったとしていきますと、約17日間程度が必要になってくる
のではないかなというふうに思うのですけれども、インフルエンザやら不測の事態に備え
て、当初から予備の時数を設定はされているようでございますけれども、本当にそれだけ
で十分なのか。

また、冬期間になって、やっぱりインフルエンザ等がまた発生して、休校といいましょ
うか、休業といいましょいうか、なる場合もあるのではないのかなというふうに思うのです
けれども、本当にこれ、小学校あたりですと夏休みだけで、短縮だけで十分なのか。

その辺をちょっとお聞きいたします。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） 現在の感染状況、若干落ち着きを見せているようにも思われる
のですが、今の状況であれば、計画どおりいけば対応できるという形で伺っています。

また、先ほども答弁させていただいたのですが、時間割編成上、いわゆる時間割の工夫な
のですけども、先ほども申しましたが、1授業時間を40分や45分に短縮したもので、
1授業増やしたり、また、今は推し進めていませんが、土曜日も活用することは可能で
ございます。

また、学校行事の精選化、重点化ということで、これに伴う準備時間をなるべく割かない
ような形で授業対応していくと。

また、今般、この文科省の指示指導の中に、学習の重点化というキーワードが出てきて
おります。

これは、いわゆる学校再開後、教科書の単元を左から右まで、最初から最後までびっしりやろうとするのではなくて、家庭でできるものは家庭です。

しかしながら、学校で児童生徒同士、教員と一緒にやらなければならないところは、しっかりと学校授業の中では対応するという形のメリハリ、区別を付けながら、時間割編成等をしてくれと。

この学校でしかできないものということなのですが、先生と児童生徒の関わり合いの中で、学習に対する動機付けを付けていくというような学習は、これは絶対授業でやってくださいと。

また、児童生徒同士がお互いに協力しながら、自分の考えを発表したり、人の考えを聞いたりというような視野を広めるような活動も学校でやってくださいと。

あと、3点目なのですが、いわゆる授業中の安全性に伴うもの、体育的なもの、もしくは実験などで、先生等がいなくて自宅で何かしら実験等をやりなさい、自習等をしなさい。

これはやめてくださいと。

これは学校で必ずやってくださいと。

それ以外につきましては、教科書の内容、それと教育課程に基づいたしっかりとした安定した家庭学習課題、いわゆるプリントをつくってくださいと。

そのプリントは、回収をさせていただいて、丸バツなどの評価を付けさせていただいて、成績に参考とさせていただきますというようなやり方をしてくださいという流れの中で、今回、計算上はじき出した数字で、今の状況であれば、生徒の状況にもよるのですけれども、対応できるであろうと考えている状況でございます。

○議長（中井康雄君） 7番宮部議員。

○7番（宮部修一君） 当初から、インフルエンザやら不測の事態に備えての予備の時間数というのは、どの程度の時間数を見ておられたのでしょうか。

○議長（中井康雄君） 阿部教育次長。

○教育次長（阿部雅行君） 当初からですけども、余剰時数ですけども、小学校でいえば30時間から60時間の範囲。

そして中学校においても、例年であれば50時間と見ています。

ただし、今回はこのような、先ほど教育長答弁したような形、工夫して、例年よりは少ない形となっております。

小学校で言えば、30時間から50時間、そして、中学校では、今現在で余剰時間見ているのは、およそ30時間を見ております。

例年より今年度はちょっと少ない状況です。

○議長（中井康雄君） 7番宮部議員。

○7番（宮部修一君） 分かりました。

結構な時間が見られていたのだなということが分かりました。

それでは次に、先ほど中西議員も質問されていたのですけれども、今回のコロナの関係で、不登校になっている児童生徒はいないのかという質問があったのですけれども、今、ある自治体あたりの報道を見ていますと、持病を持っているような子の保護者が心配をして学校に通わせないというような報道もされておりました。

そんな中で、うちの村としては、そういったコロナの関係で登校数が減っているということではないということで理解をしてよろしいでしょうか。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） コロナの関係で登校を辞退したいという状況はありません。

○議長（中井康雄君） 7番宮部議員。

○7番（宮部修一君） 分かりました。

それでは次にですけれども、学校行事、児童生徒にとっては集団での規律行動や体験学習の場として大変重要なものであるというふうに思っております。

答弁の中で、教育委員会から、各学校に学校行事の意義や必要性などの再確認を行い、感染防止対策に努めながら実施することで通知したとありますけれども、これは教育委員会からの一方的な押し付けではなくて、学校側も同じ考えであったということで理解をしてよろしいでしょうか。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） これは、学校は管理職の校長先生、教頭先生からの意見も踏まえて、学校側から一様に何等かの形を模索してやらせてあげたいと。

教育委員会の方もそれに同調するわけなのですが、安全対策、密にならないようなやり方、それと、種目の工夫、開発をしてくださいますよという中で決めた状況でございます。

○議長（中井康雄君） 7番宮部議員。

○7番（宮部修一君） 分かりました。

学校側も理解をしてということで、そういうことで受け止めさせていただきます。

あと、運動会・体育祭につきましては、先ほど、中西議員がお聞きしていましたので、省かせていただきますが、修学旅行についても、コースなどを変更しながら、それと宿泊数も減らしながら延期してやりたいということでもございました。

道教委だったかどこかの方で、今年は白老のウポポイあたりもできれば見学しなさいとか、そういった何か話も出されてはいたけども、函館方面ですので、そういったところにも寄れるのかなというふうには思います。

いろいろとコースの選定やら宿泊先、バスなどいろいろ考える点も多いかと思えますけれども、今後、やっぱり保護者の方々との打ち合わせというのはかなり重要になってくるのではないのかなというふうに思いますけれども、いつもですとそんなに保護者と打ち合わせはしていないのかもしれないけれども、今回については、そういった保護者との打ち合わせ等は考えておられるのでしょうか。

○議長（中井康雄君） 高橋教育長。

○教育長（高橋雅人君） 今回、中学校は特に、4月から8月、8月から10月ということで、非常に3回目の日程が変更になっているような状況なものですから、学校側の方も保護者の方も、その辺の件も含めて、また、安全性の確保についての創意工夫等々も含めて説明をして了解を得ると。

教育委員会としても、学校側、やりたいやりたいではなくて、保護者さんの方から、欠席がないように、それでは行かせられないということにならないようにきちんと説明をしてという形でお話を差し上げている状況でございます。

○議長（中井康雄君） 7番宮部議員。

○7番（宮部修一君） 分かりました。

それでは、最後になりますけれども、多分、19日以降ですか、国内でも県外への移動等が解除といいましょうか、そういう方向で進んでいっていると思うのですが、やはりそれによりまして、かなり人の移動等も活発化していくのではないかなというふうに感じております。

今後、このコロナウイルスが3次、4次と感染拡大が広がっていかないことを望んでいるわけでございますけれども、このコロナウイルスだけではなくて、やっぱり冬期間、イ

ンフルエンザ等の発生、流行もやっぱり考えていかなければならないと思いますし、冬期休業などもやはり、中学校は今回4日間出ましたけども、小学校あたりも本当に大丈夫なのかというふうに不安に思うところもございます。

先ほど、教育長も言っていましたように、詰込み型の授業を進めるのではなくて、やはりなるべく少し時間的に余裕を持った授業をしていていただきたいなというふうに思います。

また、運動会・体育館・修学旅行等の実施にあたりましては、保護者の皆さん方とよく連携を取って、納得をしていただくような形で進めていていただきたいなという意見を申し上げまして、終わらせていただきます。

○議長（中井康雄君） それでは、これで一般質問を終わります。

これで本日の日程はすべて終了しました。

会議を閉じます。

令和2年6月中札内村議会定例会を閉会します。

閉会 午後12時06分